

長野県新産地報告 (3)

竹重 聡*

淡い黄色ハナネコノメソウ

長野市鬼無里親沢地区（北斜面で裾花川の右岸に合流する沢）において、平成26年4月19日ネコノメソウの仲間の調査をした。沢の調査箇所の高さは800 m前後である。沢沿いには、ハナネコノメソウ (*Chrysosplenium album* Maxim. var. *stamineum* (Franch) H. Hara)、ホクリクネコノメソウ (*Chrysosplenium fauriei*)、ツルネコノメソウ (*Chrysosplenium flagelliferum*)、ネコノメソウ (*Chrysosplenium grayanum*) の四種類が確認できた。ともに沢の護岸コンクリートブロック面の目地を利用して生育し、満開に咲いていた。ハナネコノメソウ

は、四枚の萼片が純白で、萼の先が尖るが多少丸みを帯び、左岸護岸ブロックに着生していた。ホクリクネコノメソウは、全体薄黄緑色で白みを帯びた萼で右岸の上に点々と生えていた。ツルネコノメソウは、茎が横に流れてすぐ直に伸びて、花全体が小さく萼は黄色である。ネコノメソウは、ツルネコノメソウより大きく萼は黄色である。

そして調査中、コンクリートブロックの天端付近の平な地面の枯れ草に混じって、淡い黄色の萼片が2〜3個ついたネコノメソウの仲間（萼の下部が薄く紅を指す）2株を確認した（写真1,2）。これらはハナネコノメソウに似ているようで全体の容姿は、ハビタットを含め雰囲気が違う。ハナネコノメソウはシロバナネコノメソウ (*Chrysosplenium album*) の変種である。明らかな相違点は、四枚の萼片が白色



写真1



写真3



写真2



写真4

* 竹重 聡 〒381-2246 長野市丹波島 2-16-3

でなく、淡い黄色であること。ハナネコノメソウより一回り近く全体が大きいこと。赤い茎から萼片の下部まで大変多くの毛が密集していること、ハナネコノメソウ（写真 3,4）は茎に毛がほとんど無い。以下キナサネコノメソウ（仮称）として相違点の詳細を下記に記す。

キナサネコノメソウ（仮称）はユキノシタ目ユキノシタ科メコノメソウ属の何の種に入るのか。明らかに品種ではない。別種なのか、変種なのか。まだこの先、形態的観察を継続しなくてはならないが、細かな相違点からキナサネコノメソウ（仮称）は変種と考えて、ネコノメソウ属のキナサネコノメソウ（仮称）が同属のシロバナネコノメソウの変種として扱われた場合、ハナネコノメソウとキナサネコノメソウ（仮称）の 2 種類の変種が同所的に生育し、生殖隔離が起こっていると考えられるので、「同所的に生育する例があることや、形態的な特徴の著しい差異から別種として扱うべき（若林三千男・大場秀章 1995）」との論文報告により、筆者は前述論文報告と現段階の細かな相違内容を踏まえ、キナサネコノメソウ（仮称）は別種であると推定する。

キナサネコノメソウ（仮称）

萼片があまり開かない

花茎・葉に毛が非常に多い

萼片下部の葉表は赤い毛が太くふちにある

1 茎の花の数は 4 ～ 6

萼の色は淡い黄色

葯の色は橙色

花茎が大きな株にならない

葉の鋸歯最大数は 7

標本後の萼片は緑色となる

ハナネコノメソウ

萼片が平開する

花茎・葉にほとんど毛が無い

萼片下部の葉表は毛が疎らである

1 茎の花の数は 2 ～ 3

萼の色は白色

葯の色は暗赤色または赤色

花茎が密集して大きな株になる

葉の鋸歯最大数は 5

標本後の萼片は白色となる

参考文献

- 若林三千男・大場秀章（1995）ネコノメソウ属ホクリクネコノメ群（ユキノシタ科）の一新種と群内の分類学的検討 植物分類・地理 46（1）、1-27